

## 別記 8 耐火構造の壁又は床の区画を貫通する配管の施工方法

(平成 7 年 3 月 31 日消防予第 53 号通知 「令 8 区画及び共住区画の構造並びに当該区画を貫通する配管等の取扱いについて」)

(平成 19 年 10 月 5 日消防予第 344 号通知 「令 8 区画及び共住区画を貫通する配管等に関する運用について」)

### 1 配管を使用する場合

配管が貫通している部分及び貫通部の両側 1 m 以上の範囲は、下記 2 に掲げる配管等とすること。

### 2 配管の種類

配管材料については、製造所の例によること(第 3 章第 2 節第 1 製造所 20 配管・電動機・ポンプ等の位置(1)のただし書き以降の材料を除く)

### 3 配管の用途等

- (1) 配管の用途は、製造所等の作業工程上必要不可欠な配管とする。
- (2) 一の配管の外径は、必要最小限とすること。
- (3) 配管を貫通させるために設ける穴が使用配管の外径に 100 mm を加えた直径以下となる工法であること。なお、当該貫通部の形状が矩形となるものにあつては、当該貫通穴の円に相当する面積以下であること。
- (4) 配管を貫通させるために設ける穴相互の離隔距離は、当該貫通させるために設ける穴の直径の大なる方の距離(当該直径が 200 mm 以下の場合にあつては、200 mm)以上であること。
- (5) 配管の耐火性能は、当該貫通する区画に求められる耐火性能時間以上であること。

### 4 貫通部の処理

#### (1) セメントモルタルによる方法

ア 日本建築学会建築工事標準仕様書(JASS)15「左官工事」によるセメントと砂を容積で 1 対 3 の割合で十分から練りし、これに最小限の水を加え、十分混練りする。

イ 貫通部の裏側の面から板等を用いて仮押さえし、セメントモルタルを他方の面と面一になるまで十分に充填する。

ウ セメントモルタル硬化後は、仮押さえに用いた板等を取り除く。

#### (2) ロックウールによる方法

ア JIS A9504(人造鉱物繊維保湿材)に規定するロックウール保湿材(充填密度 150kg/m<sup>3</sup>以上のものに限る。)又はロックウール繊維(密度 150kg/m<sup>3</sup>以上のものに限る。)を利用した乾式吹き付けロックウール又は湿式吹き付けロックウールで間隙を充填する。

イ ロックウール充填後、2.5 mm 以上のケイ酸カルシウム板又は 0.5 mm 以上の鋼板を床又は壁と 50 mm 以上重なるように貫通部に蓋をし、アンカーボルト、コンクリート釘等で固定する。